



## 養殖漁業に取りくむ

二百〇時代の定着化に伴い、これまでの捕り放題の漁業の在り方を見直す機運が高まっているなか、十三湖・前潟で種づくり、場づくりの増養殖調査事業が漁業関係者に よって積極的に進められている。

(関連記事四面に)

400mlの網いけすにはヒラメの種苗10万尾を入れ中間育成を始めました。

昭和56年 6 月号



# 塩分をとりすぎているなア

## 試食・血圧測定など人気

「いまいち自分の健康を確かめよう」胎児の声を聞こう」をテーマにした「村民健康まつり」は、六月二十日午前十時から基幹集落センターを第一会場に、相内小学校講堂を第二会場に開催し、約二百五十人の村民が食生活改善・健康維持のためのアドバイスを受けるなど、有意義な一日を過ごしました。

「環境を清潔にし、美しい村をつくらう」アタリとガンを防ぎ健康で明るい家庭を築こう」成人病を予防するために食生活を見直す」などをテーマに開催してきた「村民健康会議」は、ことしで第九回目を数えますが、「自分の健康は自分で守る」ことの意識

の高揚と相まって、保健衛生や環境美化推進運動などにも大きな効果上げてきました。しかし、これまでの健康会議は、質疑応答形式で、内容においても主催者側の一方通行的な傾向が強く、参加者、特に若い人たちの集まりが年々減少してまいりました。

村では、一人でも多くの村民に集まってほしいというところから、これまでの質疑応答形式をなくし、代わって「減塩試食コーナー」や「乳ガンチェックコーナー」などを設置、講演も幅広い層に人気のある詩人・伊奈かつい氏を講師に招くなど、内容、趣向

にアイデアを出しあい「健康まつり」と名称を改めました。第一会場の基幹集落センターでは、食生活の改善や健康問題を考えるコーナーがスラリ。日ごろの食品にどれぐらいの塩分が含まれているかを明示したり、自然食品の展示即売、試食したりの「減塩試食コーナー」。リハビリ用具の展示、血圧、体力測定用のサビレスとアドバイスをする「成人病予防防衛コーナー」。性病の恐ろしさを資料によつて説明する「性病予防防衛コーナー」。乳ガンになった時の状態はどうなるのかを熟知模型によつて、その感触を確かめる「乳ガンチェックコーナー」。民生課一年間の足あきを紹介する「写真展示コーナー」のほか

「民生課なんでもコーナー」や「入場整理券発行コーナー」など七コーナーが設けられ、金木地区農業改良普及所の三浦みつ江主任、桜庭廣次五所川原保健所長、岡田りエ同保健婦課長らが、それぞれのコーナーで専門的なアドバイスをしました。会場には次から次へと村民が詰めかけ、特に血圧、体力測定コーナーには大変な人気。また、自然食品展示、減塩試食コーナーにも主婦らの入りがきで、それぞれ試食をすすめては、「このくらい塩加減がいいんだナア、お父さんのかしょっぱい」を少し改めさせなければ……」などの声が相次いでいました。



健康まつりスナップ

# 第9回 村民健康まつり

## いまいちど自分の



### 「笑顔、それが健康である」

詩人・伊奈かつべい氏の記念講演

### 趣向変え村民に好評



講演する伊奈かつべい氏

第二会場の相内小学校講堂では、午後一時から式典が開かれ、葛西安十郎村民生課長が、村民健康まつりの開催主旨説明と「いまいちど自分の健康を確かめ、健康で明るい家庭生活を送ろう」と呼び

かけたあと、山田勝明村収入役(村長代理)、桜庭廣次五所川原保健所長らがあいさつしました。

続いて、「国民健康保険健康優良家庭・献血協力者、歯のコンクール入賞者、環境美化推進団体などを表彰したあと、講師の伊奈かつべい氏による「花いっぱい抽せん会」が行われ、出席した村民にフラワーポットやはち樺え、花の種などのプレゼントがありました。

次いで、伊奈かつべい氏が、らく書き放談「健康アララ、ル」と題して講演。「きわめて不健康な生活をしているボクを健康まつりの講師に招いたことは、村当局のミステーク!?」と独得のユーモアを交えながら語り、「要するにみなさんはその逆の生活を!!」と爆笑を誘い、「ムス」としているより笑顔、大声はりあげて笑うこと、それが健康なのです」と結び、健康で明るい村民から大きな拍手をあげていました。

### 表彰

健康まつりでは多数の人たちが表彰を受けました。

- 国民健康保険優良家庭
- 医療機関を利用しなかった期間
- 五年間(昭和五十年年度から五十四年度)三浦モト。
- 三年間(昭和五十二年年度から五十四年度)竹谷友三郎。
- 二年間(昭和五十二年年度から五十四年度)奈良正弘、成田つぎよ、石浜健春、成田岩元、小野太郎、浜田昭彦。
- あたたかい心の献血
- ありがたい心臓血
- 通算二千回以上献血協力者
- 棟方由美、木村兼一、葛西美穂子、三上いづみ。(二十一回)
- 二十五回以上献血協力者
- 山田義正、相坂トシエ(以上二十五回)吉田とめ(二十五回)
- 三十五回以上献血協力者
- 丁子谷 悟(三十五回)
- これから
- しっかりみがこうネ
- 五十五年度、歯のコンクール
- 優賞 工藤千木(十三保育所)三和公也(相内小五)
- 準優賞 佐藤雅穂子(相内保育所)
- 河川海岸を美しく...
- 五十五年度、河川海岸環境美化推進表彰団体
- 十三小学校、脇元小学校、金木高校相内分校、十三、相内、脇元・磯松・太田・桂川婦人会、脇元漁業協同組合組合人部。



250人かつべい氏(前)第一会場

曲のコシタール優賞 五歳千木ら

健康まつりスナップ

準優賞佐藤雅穂子ちゃん

男力賞を代表して小寺あゆみちゃん

心づくサインに応ずる伊奈かつべい氏

# 育てる漁業へスタート

## ヒラメ十万尾を中間育成

### 十三湖・前潟の大養殖場めざす

育てる漁業の可能性調査を目的にした「資源管理型漁業」の試みは、国・県がスタートさせた本県日本海沿岸を対象とする「津軽海域総合開発調査事業」が土台となつていゝもので、十三湖、前潟では昭和



岩手県からトラック輸送したヒラメの種苗は約2週間育成をして、放流します。

五十四年度から、さけ、ますふ化放流、五十五年度からはクルマエビ放流、そして五十六年度からはホタテ貝放流事業、ヒラメの中間育成放流試験事業に着手したもので、

このしから始まったヒラメ中間育成放流試験事業は、北部日本海沿岸のヒラメ増殖の可能性試験を目的にしていますが、この事業効果によつては、十三湖・前潟に大規模育成施設の設定も夢ではなく、同事業の成功は本県日本海沿岸漁業の振興はもとより、当村にもたらすメリットに大きな期待がかけられています。

ヒラメの種苗は、岩手県にある財団法人日本栽培漁業協会、栽培漁業センター宮古事業場でふ化したもの十万尾をトラックで輸送しました。十七日早朝到着したヒラメの稚魚は、体長一・五センチ、体重〇・〇四グラム。

—580—

ランタンを多く集めるための電灯を配備した四百平方メートルの囲い網中間育成施設を造つていたが、到着後、さつそく県水産試験場関係者の見守る中で、組合員らが網いけすにヒラメの稚魚を入れました。ヒラメの中間育成は、自然のプララントンのほか、配合飼料、ブラインシリブなどのでエサを併用して、約二週間行われますが、五日おきに育成調査をする一方、二・三センチに成長した頃を見計らつて放流時の数量調査をして同港に放流することになっています。放流されたヒラメの稚魚も一年後には三十センチぐらいにまでは成長するだろう。この事業にかける関係者の声は大きい。



一・五センチ、一年後には、三十センチの期待がかけられる。

## 農家の意地だ ことしこそ豊作を



荒馬、太刀振りの行列にはこれまでにないファイトが…。

### 〃冷たい夏〃を克服しよう

ことしも、冷害を予感させるような冷たい風が吹きつける五月三十日、相内の。虫おくりは冷害を吹き飛ばすような勢いで、にぎやかに行われました。

相内の。虫おくりは、長い伝統をもつ民俗芸能として、県内外から高く評価されていますが、冷害で四億四千万円にものぼる被害を受けた去年のことを思うと、農家の心も沈みがち、……。

しかし、豊作を願う荒馬を先頭に村をねり歩く太刀振りの行列には、これまでにないファイトと、冷害克服にかける農家の意地がみられました。

ことしも、冷たい夏が予報され、去年に続いて「農作物不順天候対策本部」が設置されました。去年の反省に立ち、農家関係機関・団体等が一体となつて冷害克服に努力したいものです。

# 高まる学習意欲

豊かな老後は学習から



150人が出席した「ことぶき学級」の開講式

## 秋には「観賞菊」の展示会も

健康で生きがいのある老後のために。  
やまびこ大学「ことぶき学級」の開講式は、六月十八日午前十時から基幹集落センターで行い、村内の老人約百五十人が出席し、第一回目の学習である「観賞菊」のつくり方を勉強しました。

これまでの「老人保健学級」をやまびこ大学「ことぶき学級」に名称をかえたものですが、目的、学習内容などについては大きな変更はありません。

「ことぶき学級」は、市浦村・金木地区農業改良普及所、老人クラブ連合会の共催。老人クラブ会員および市浦村に居住する六十歳以上の老人であれば誰でも受講でき、その主旨は、老年期における健康管理とその保持増進、日常生活に即した健康教育、老後生活に必要な一般教養と趣味・娯楽などの学習を行い、老人の生きがいの創造に資するとしています。

この日の開講式では、佐藤 佐吉学級委員長のオリエンテーションに始まり、市浦村長の代理で出席した葛西安十郎民生課長が「みなさんのすばらしい業績と経験を次代に受け継ぐためにも一層の活躍と協力を願います」。市浦村の人口は高齢化が進んでいるが、誰かに何かをしてもらう、してもらいたい、という

■ 7月から10月までの開催日と学習内容は下記のとおりです。

開催日	学 習 内 容	時 間
7. 17 (金) 磯松公民館	郷土料理の伝承(実習) 各老人クラブ代表者	10:00 ~11:00
	講演「高齢者の生きがい」 小田原 金一 先生	11:00 ~12:00
	ゲーム指 導 民生課 越谷 悟	13:00 ~15:00
	講話「家庭の中の精神衛生①」 三橋 きく 先生	10:00 ~11:00
8. 18 (木) 協元公民館	講話「郷土の歴史」 佐藤 慶治 先生	11:00 ~12:00
	レクリエーション 学 級 委 員 会	13:00 ~15:00
	講話「若さを保つためには」 保健婦 小野 明美	10:00 ~11:00
9. 17 (水) 十三公民館	郷土料理の伝承(実習) 各老人クラブ代表者	11:00 ~12:00
	レクリエーション 学 級 委 員 会	13:00 ~15:00
	講話「家庭の中の精神衛生②」 三橋 きく 先生	10:00 ~11:30
10. 20 (木) 協元公民館	話 し 合 い 学 級 委 員 会	11:30 ~12:00
	ゲーム予 選 会 民生課 越谷 悟	13:00 ~15:00

気持ちを捨て、健康で生きがいのある立派な老年者になつてほしい」と、村元富勢老人クラブ連合会長からは、「やまびこ大学は月一回平均で開催されるが、二人でも多くの仲間が参加し、十二月の開講式には多数の「大学修了生」が誕生することを期待する」とあいさつがありました。

続いて三橋きく先生が「少しリラックスしよう!」と、軽い運動を指導して会場のふんいきをやるわらげたあと、金木地区農業改良普及所三上主任を講師に「観賞菊」のつくり方を勉強しました。

この日配ばられた菊の苗はそれぞれ持ち帰り、大切に育てることにし、満期になる十一月には観賞菊の展示会を行うことになっています。



サア、学習だ、やまびこ大学に集まった「大学生」、いつまでも長生きしようネ!!

### 3歳児健診

## 全国平均です



保健師の質問に元気に答える3歳児

六月五日、基幹集落センターで三歳児健康診査が行われ、三十二人の三歳児が健診を受け、医師や保健師の質問に元気な声で答えていました。

三歳児健診とは、子供たちの身体発育の健診にとどまらず、むし歯や精神発達の検査、相談、指導を行い、あわせてし体不自由、精神薄弱、視力や聴力障害など心身障害の早期発見を目的とする大切な健診です。

健診の内容は、尿検査、行動発達検査、問診、身体計測、内科診察および歯科診察と保健師による相談や指導です。当日は、遊ぶのに忙しくて検査や計測になかなか協力してくれない子、母親から離れようしない子、ハキハキとしゃべり答えて医師や保健師を驚かせた子など、健康を三歳児のいろいろな姿がみられました。



何か書いてみて？  
ウンノドラえもんでも書いてやるか

—199—

増えた

三歳児のむし歯

三歳児の身体計測値の平均をみると、身長では男児94・7センチ、女児93・3センチ、体重では男児14・7キログラム、女児13・9キログラム、胸囲は男児52・8センチ、女児51・5センチ、頭囲は男児50・2センチ、女児49・7センチという結果が出ました。

この値は、三歳児の全



小野明美  
(派遣保健師)

国平均値とほぼ同じで、やはり男児が女児よりも体格がやや上回わるようです。

残念なことは、むし歯の平均本数が四・五本で前回に比べ増えていること。三歳児のむし歯予防は、日常の歯みがきの習慣と上手にみがく指導も大切なことです。お母さんからは、子供のごとばや発音、クセ、おしこのしつけ、偏食などについての質問が多くなりました。

## 緑風の中に歓声

保育所も参加し  
一斉に運動会



緑風さわやかな六月は運動会の季節。年一回行われる、中学校の運動会は、児童生徒だけでなく父兄にとっても楽しみな一つ。今年も六月七日、村内一斉に小学校の運動会が行われ、各校の校庭いっばいに歓声が飛んでいました。

この日は、気温は例年より低かったものの、晴天に恵まれ、ごごの会場も大にぎわい。婦人会や老人クラブ等の各団体、保育所の参加もあり、父兄や先生たちの声援をいっばいに受けて、いろいろなゲームを楽しんでいました。



イチチニ、イチチニ  
準備運動をして元気に走りました



速日熱戦がくりひろげられている  
ナイターバレーボール大会

## 住民スポーツの リーダーシップ

### 指導体制の確立と 住民スポーツの振興

市浦村体協で総会

市浦村体育協会（山田勝明会長）の総会は、六月五日役員会場会堂に会員約三十人が出席して開かれ、欠員中の副会長に古川政幸さんを選出補充しました。

「私たちの長年の夢であった体育館が、B&G財団市浦海洋センターの完成で実現されるようとしている。今後は、施

設の効率的利用をはかり、体育専門部のレベルアップと、村民総スポーツ振興のためにも、リーダーシップをとる必要がある」とあいさつしました。

続いて、来賓として出席していた白川治三郎村長、俵谷佐之二教育長が、「B&G財団市浦海洋センターの工事が、いま急ピッチで進められ、八月には完成の予定である。九月には完成の予定である。九

### リーダーとして がんばりたい

市浦村体育協会の大先輩であり、住民スポーツの指導者であった山内莊三副会長が仕事の関係で転出したため、一年間の残任期間を引き受けることになったが、はつきり言って自信はない。

総会では「住民スポーツ振



古川 政 幸  
(村体協副会長)

興のためのリーダーシップをとる」ことが決められたが、各専門部の組織強化、指導者の養成と指導体制の確立、スポーツ施設の効率的利用など、市浦村体協としてやらないといけないことだらけです。みなさんの協力を得て、これらの問題解決に少しだけでも役立てればと思っています。

月からの利用運営については積極的に参画し、高効率利用をはかり、体協のパワーアップに努めてほしい」と激励しました。

そのあと、五十五年度の事業報告、同決算。五十六年度事業計画、同予算を審議し、原案通り承認しました。このし事業計画では、体協各専門部（陸上・野球・テニス・卓球・バドミントン・バレーボール）の各教室の開

催、地域住民への普及と指導体制の確立を重点とし、市浦海洋センターの効率的利用運営については、積極的に参加することなどを決めました。

金木地区交通安全協会市浦支部（白川孝治支部長）の総会は六月九日午後七時から、会員多数が出席して基幹集落センターで開かれました。

安全については、村民一人一人が積極的運動をもちあげ、交通事故「ゼロ」の記録も千日

を目前にして、二月二十一日臨元地区で死亡事故が発生。九百六十八日での記録がストップ

私たちは、交通安全運動を一層強化すると同時に、気を引き締めて交通事故ゼロをめざしてがんばらなければならぬ。とあいさつしました。

続いて、来賓として出席した吉見善七金木警察署長が「若年者は最近メチャクチャ運動をする傾向が強く、道法精神に欠けています。若年者の暴走、飲酒運転の根絶と事故防止のため、地域住民が一体となつてがんばってほしい。」

最近の交通事故の現況と事故防止を呼びかけました。そのあと、議事に入り、秋田谷多喜郎事務局長から五十五年度の事業、同決算報告があり、昭和五十六年度事業計画、同予算を審議し、それれ原案通り承認されました。

## 決意新たに 事故「ゼロ」へ 再挑戦

五十六年度の主な事業としては、若年運転者の事故防止対策、歩行者、特に子供と老人の事故防止対策などを重点目標に、①法令講習会および映画会の開催 ②児童、生徒、家庭の主婦を対象に交通安全教室の開催などを決めました。



総会では、暴走、飲酒運転の根絶を求めました